

脳神経外科に通院中の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題名】 脳動脈瘤の増大およびコイル塞栓術後再発におけるパロキセチンの抑制効果の後ろ向き検討

【研究機関名・長の氏名】 北海道大学病院 秋田 弘俊

【研究責任者名・所属】 北海道大学病院 脳神経外科 助教 杉山 拓

【研究代表機関名・研究代表者名・所属】 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 脳神経外科 丹羽 陽子

【共同研究機関名・研究責任者名】

1. 京都医療センター 脳神経外科 福田 俊一
2. 九州医療センター 脳血管・神経内科 矢坂 正弘
3. 仙台医療センター 脳神経外科 井上 敬
4. 名古屋医療センター 脳神経外科 浅井 琢美
5. 嬉野医療センター 脳神経外科 宮園 正之
6. 四国こどもとおとなの医療センター 脳神経外科 高麗 雅章
7. 長崎医療センター 脳神経外科 堤 圭介
8. 災害医療センター 脳神経外科 重田 恵吾
9. 舞鶴医療センター 脳神経外科 井上 靖夫
10. 九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 西村 中
11. 高知大学医学部附属病院 脳神経外科 上羽 哲也
12. 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井 信幸
13. 医療法人清仁会 シミズ病院 脳神経外科 清水 史記
14. 国立循環器病研究センター 飯原 弘二

【研究の目的】

クモ膜下出血の主な原因は脳動脈瘤の破裂ですが、未破裂脳動脈瘤の治療法は外科的治療しかなく、薬物治療法は未だ存在しません。脳動脈瘤は大きいほど破裂しやすく、その増大を抑制することで破裂率を低下できることから、私たちは抗うつ薬パロキセチン内服に

よる内皮血流感知システムの阻害により、ヒト未破裂脳動脈瘤の増大やコイル塞栓術後再発を抑制できるかどうかを後ろ向きに検討しています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

未破裂脳動脈瘤の患者さんで、平成 20 年 1 月 1 日以降、コイル塞栓術の治療を受けている方、あるいは、経過観察している方で、北海道大学脳神経外科に通院中の方。

○利用するカルテ情報

生年月、年齢、性別、既往歴、家族歴、内服歴、検査結果、手術歴、画像検査（血管造影検査、CT アンギオグラフィー、MR アンギオグラフィー）

この研究は、京都医療センターで実施します。上記のカルテ情報は、全国的な調査のために、京都医療センターに、CD-ROM／郵送・宅配／電子的配信で送付します。

[研究実施期間] 実施許可日～2022年3月31日（登録締切日：2021年3月31日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院脳神経外科 担当医師 杉山 拓

電話 011-706-5984 FAX 011-708-7737